

研究・調査報告書

報告書番号	担当
360	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Alcohol beverage preference and characteristics of drinkers and nondrinkers in western New York (United States) ニューヨーク西部におけるアルコール飲料の嗜好と飲酒者・非飲酒者の特徴	
執筆者	
McCann SE, Sempos C, Freudenheim JL, Muti P, Russell M, Nochajski TH, Ram M, Hovey K, Trevisan M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Nutr Metab Cardiovasc Dis, 2003; 13 (1): 2-11.	
キーワード	
ビール、ワイン、蒸留酒、アルコールの種類、食習慣、生活習慣	
要 旨	
<p>目的：健常人における、アルコール飲料の嗜好と関連する食餌および生活習慣の特徴の違いを描写する。</p> <p>方法：New York 西部で実施している、飲酒・心筋梗塞・肺がん・乳がん、および前立腺がんに関するケースコントロールスタディのデータを用いて分析を行った。対象者は Erie 郡と Niagara 郡の一般住民から無作為に選ばれた 35 歳から 79 歳までの男女各 1,840 名、1,910 名である。飲料嗜好については、非現在飲酒者 対 現在飲酒者、ビール・ワイン・蒸留酒および混合の各飲酒カテゴリーに分けた。</p> <p>結果：参加者の特徴はアルコール飲料の嗜好毎および飲酒状態毎に異なっていた。一般的に、ワイン嗜好者は他のアルコール飲料嗜好者に比べると、高教育歴、高収入、低喫煙率であるとともに、繊維・カリウム・Vit E・総カロチノイドの摂取量は多く、総脂肪摂取量は少なかった。また、果物・野菜・穀物製品の摂取量は多かった。ビールや蒸留酒嗜好者ではその逆であった。また、現在非飲酒者は現在飲酒者に比べて、高齢、低学歴、低収入、および理想的食餌とはかけ離れた食生活習慣を有しがちであった。</p> <p>結論：普段のアルコール飲料の嗜好性は、その他の健康関連行動を含有しているかもしれない。</p>	